

【社会】 <小学校 第5学年>

1 結果のポイント

- 「わたしたちの生活と食料生産」については、資料の数値を正しく読み取る力をみる問題や、目的に応じて関係のある資料を選ぶ問題、資料から正しく変化を読み取る問題の正答率はすべて70%を上回っている。他方、農作業にかかる時間が半分以下になったものを読み取る力をみる問題の正答率は60%を下回っており、資料を比較してその特徴を読み取る力は十分身に付いているとはいえない。
- 「わたしたちの生活と工業生産」については、人や環境のことを考えた自動車生産の工夫を考え判断する力をみる問題の正答率は80%程度である。また、我が国の工業や工業地帯の特色等に関する問題の正答率は80%を上回っている。他方、「自動車の組み立て工場」や「部品をつくる工場」の意味や働き、特徴や関連、働いている人々の様子等の理解をみる問題の正答率は60%程度であり、「自動車の組み立て工場」や「部品をつくる工場」についての基本的な知識が十分身に付いているとはいえない。
- 「わたしたちの生活と情報」については、放送局で働いている人の工夫や努力を「正しい情報を伝える」という観点から考え判断する力や、これからの情報社会において、情報の有効な活用について考え適切に判断する力をみる問題の正答率は80%を上回っている。また、放送内容の一部を直前に入れかえて地震の情報を放送する理由を考え、表現する力をみる問題の正答率は70%台であったが、昨年度の類似問題の正答率を上回っている。

2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

<問題> ③ の3 ② の2

③ 3 ①の中のア～エの中から、金属工業でつくられるものを一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。

ア 糸 イ ガソリン ウ ^{てっこう}鉄鋼 エ カメラ

② 2 上の写真②のような「部品をつくる工場」では、どんなくふうをしていますか。ア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。

ア ようせつして車体に仕上げていく作業は、人に代わってロボットが行うようになってきている。
イ 注文通りの数を、決められた時間に工場に届けられるように、計画的に仕事をしている。
ウ 人々がどんな自動車に乗りたいと考えているのかを調べて、デザインなどを決めている。
エ 作業の指示書をよく見て、部品をまちがいになく車体に取り付けている。

<結果> ③ の3 正答率 93.0% ② の2 正答率 59.2%

<分析>

③ の2は、「金属工業でつくられている製品について正しく理解しているか」をみる問題である。正答率は高く、また「知識・理解」をみる他の問題でも正答率は75%程度であることから、基本的な事項についての理解はおおむね身に付いていると考えられる。昨年度と比較しても正答率は高くなっており、「知識・理解」にかかわる指導の充実が図られていると考えられる。

② の2は、「部品をつくる工場の意味や働き、特徴や関連等について正しく理解しているか」をみる問題である。正答率はやや低いが、この要因は「部品をつくる工場」と「組み立て工場」についての理解が十分図られていないからであると考えられる。各工場について、仕事内容を図にまとめる等の作業的な活動を通して学ぶことを大切にするとともに、2つの工場を比較したり関連させたりして、各工場の意味や働き、工夫や努力について具体的に理解できるようにする必要がある。

(2) 「観察・資料活用の技能・表現」の力をみる問題の例

<問題> ① の 2 ① の 3

① 正男さんたちは資料を見て話し合っています。1. 2の問題に答えましょう

(資料) 稲作の農作業にかかる時間のうつつりかわり (10 アール当たり)

なえつくり	田おし	田植え	草とり	水の管理	とり入れ	そのほか
12	25	15	11	40	8	

平成12年 33時間

1 次の ①, ② にあてはまることばを、のア～ウの中から一つずつ選び、□の中に書きましょう。

先生：稲作の農作業全部にかかる時間はおよそ30年……(中略)……

正男：(A)稲作の農作業にかかる時間が短くなってきたのは、何か理由があるのかな。

2 1の正男さんの疑問(A)について調べる手がかりとなる資料はどれですか。ア～ウの資料の中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。

ア 農家で働く人の数の変化 イ 主な農業機械の所有台数の変化 ウ 米の生産量と消費量の変化

3 次のグラフを見て、①, ② にあてはまることばの組み合わせを、のA, イの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。

農業だけで収入を得る①がへり、農業以外でも収入を得る②がふえてきました。

ア ①専業農家 ②兼業農家
イ ①兼業農家 ②専業農家

専業農家と兼業農家の戸数の変化

<結果> ① の 2 正答率 74.8% ① の 3 正答率 76.5%

<分析>

①の2は、「目的に応じて関係のある資料を選ぶことができるか」をみる問題である。この問題以外の「観察・資料活用の技能・表現」の力をみる問題の正答率はほぼ75%以上であったことから、昨年度と同様、「観察・資料活用の技能・表現」の力の実現状況はおおむね良好であるといえる。誤答に「ウ」が多かったが、これは「米の生産量が減少したために、農作業にかかる時間が短くなった」と判断したためであると考えられる。資料の「10アール当たり」「割合」に着目させる等、資料が「何について、どのように表しているのか」を的確にとらえることができるよう指導することが大切である。また、社会的事象の意味をいくつかの資料を根拠にして考えることができるよう、発達段階に応じて段階的に指導する必要がある。

①の3は、「資料の数値を正しく読み取り、変化を正しく読み取ることができるか」をみる問題である。「専業農家と兼業農家の割合に着目し、グラフ全体の様子をとらえ、その変化や特徴をとらえる技能」はおおむね身に付いているといえる。また、専業農家や兼業農家の意味についても、正しく理解していると思われる。「観察・資料活用の技能・表現」の力は、事実や社会的事象の特徴や意味をとらえるための重要な力である。身近な観察や調査、多様な資料の読み取りを通して、資料の収集や活用の技能、調べたことを効果的に表現する活動等をさらに充実させる必要がある。

(3) 「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> ④ の 2

2 この文は、正男さんのメモにある②の仕事をしている人にインタビューしたときのメモです。

放送開始の直前に、地しんなど別のニュースが飛び込み、放送予定の内容の一部を直前に入れかえることもある。

ゆみさんのメモのように、地しんの情報が入ったときに、放送内容の一部を直前に入れかえて、地しんの情報を放送するのはなぜですか。あなたの考えを□の中に書きましょう。

<結果> **4** の2 正答率 77.3%

<分析>

この問題は、「放送局で働く人々の工夫や努力について、明確な根拠をもって考え適切に表現できるか」をみる問題である。正答率は80%程度であり、また、**4**の1の「放送局で働く人々の工夫や努力」を判断する問題の正答率も高く、「思考・判断」の力もおおむね良好であるといえる。正答の中には、放送局の立場から、「人の命にかかわる大切なことだから優先的にする。」という論理的な記述や、「もし海沿いで津波が起きたら危険なので、少しでも早くその様子を伝える必要がある。」等生活経験を根拠にした記述が多くみられた。また、昨年度の記述式の問題と比較すると、正答率は高くなっており、「どういう視点や立場で考え、判断したか」等の指導の改善が図られていることがうかがえる。一方、無解答が6%以上あることから、社会的事象の意味を自分の言葉で適切に表現できるような指導の一層の充実が求められる。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るという観点から、指導内容が地域や児童の実態を踏まえ吟味、精選されているか見直しを図る。

- ・単元における評価規準を明確にし、基礎的・基本的事項は何かを明確にする。そして、単位時間の評価規準の重点化を図るとともに、評価規準を児童の姿でより具体化する。
- ・児童の実態や地域の特色を踏まえ、目的を明確にした見学調査、体験的な活動や作業的な学習を位置付け、「どの時間に、どんな力を、どんな活動を通して育てるのか」を明確にする。
- ・他教科や総合的な学習の時間との関連を考慮したり、学校や地域の行事との関連を考慮したりする等、効果的な学習が展開できるように見直しを図る。

(2) 指導方法の工夫改善

問題解決的な学習の充実を図ることで、調べたことを発表するだけでなく、調べたことや自分の考えを表現する力、社会的事象の特色や意味等について考える力を育てるよう見直しを図る。

- ・「観察・資料活用の技能・表現」の指導に当たっては、資料の部分に目を付けて分析的にとらえることや資料の全体からまとめてとらえること、「どのように資料を読み取るか」等、育てたい技能を明確にする。また、見学や調査したことや資料で調べたことを絵や図、表やグラフにまとめる作業的な活動を意図的に位置付け、社会的事象の特徴や意味について具体的に、しかも実感をもってとらえることができるようにする。
- ・「思考・判断」の指導に当たっては、「どんな視点や立場から考えさせるのか」「何を根拠にしてどのように考えさせるのか」、そして「どんな見方や考え方を育てるのか」等、指導の内容を明確にする。そして、仲間と交流したり、調べたり考えたりしたこと、明らかになった社会の仕組み等について目的に応じて適切に表現できるように場を位置付けたり表現の仕方を意図的に指導することが大切である。
- ・評価規準を活用して、個の学習状況を的確にとらえ、個のつまずきに応じて指導・援助し、国民生活の維持向上や国土の保全等について調べたり考えたりできるよう改善を図る。
- ・授業改善については、県の「学力向上プロジェクト」における各事例も参考にしたい。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・5年生では、日本各地の具体的な事例を通して我が国の産業の様子や特色について学ぶ。したがって、日本地図や各種の統計資料を掲示し、児童が常に意識し活用できる環境を整備することが大切である。
- ・一人一人の調べ方や学び方のよさを広げたり、見方や考え方を深めたりする上で、練り合いの一層の充実を図りたい。そのためには、調べ方や学び方、見方や考え方のよさを教師が適切に価値付けることを大切にする。一人一人が大切にされる学級経営を基盤に、考えが深まり仲間と学び合うよさが実感できる質の高い学習集団の育成に努めたい。